

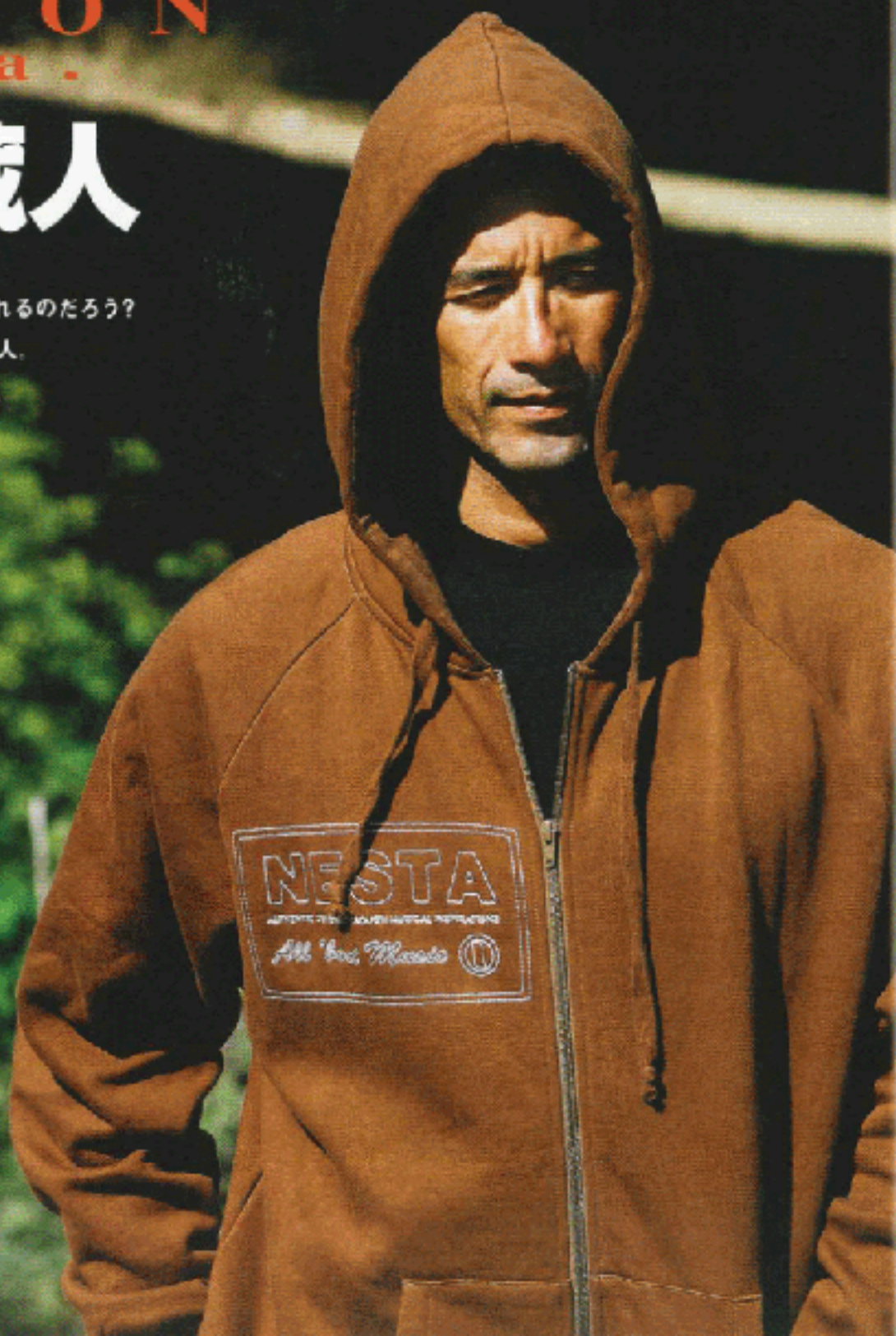
A K T I O N
a . k . a .

真木蔵人

今度はどんな世界を見せてくれるのだろうか？

自分のスタイルで歩み続ける人。

常に新しい自分に挑戦する人。

Photo/横尾光隆・中島昌樹
Interview/木村尚志

コンテストに復帰し、JPSA公認プロ・ロングボーダーとなった。その日は真木蔵人を密着取材したDa.VD「Clauzo Claude Show！」の発売日でもあった。「Clauzo Claude Show！」はスタイル、世界を知ることが出来るDVDだ。カリフォルニアを舞台とした彼の自然な姿を映し出すサーフシーン、流れる音楽は好きなHIP HOP。そのライディングにはなぜかHIPHOPが似合う。それは彼のライフスタイルそのものを表わしているかのようだ。

7月16日、AKTION a.k.a.真木蔵人のデビューアルバム「WHITE BOOK」が発売された。今年はコンテストに専念するのかなと思ったが、やはりそのスタイルはそれだけではない。俳優、映像監督、サーファーとして活躍する彼はもうひとつの表現を持つ。ラッパーとしての、AKTION a.k.a.真木蔵人だ。ファーストレコーディングは2001年、自身が出演した北野武監督主演映画「BROTHER」のインスパイアードソング、盟友ZEEBRAの「Neva Enuff feat.AKTION」でのラッパーとしてだ。

今回のインタビューでは、ラッパーとしての真木蔵人に焦点を当てながら、彼の今に少し近づいてみた。

SW: 蔵人さんにとって音楽はどんなものですか？

真木蔵人(以下MK): 親父がミュージシャンの家だからね。でもマイク真木は金稼ぎのミュージシャンというよりは一本気なミュージシャンの方で、それに親父のエンターテインメントがくっついている感じだから。形は違っても俺はHIPHOPで表現しているわけだけども。そういう音楽で何かを表現するという家に生まれたわけだから、音楽を聴くこととか作ることっていうことには絶えず身近なところにいたと思う。

SW: 蔵人さんにとってはHIPHOPなんですか？

MK: 表現の形として自分が一番かっこいいと思っている音楽だから。それと身近にUBGという日本のHIPHOPシーンを支えた大きなクルーがいたからだね。

SW: CDリリースのきっかけは？

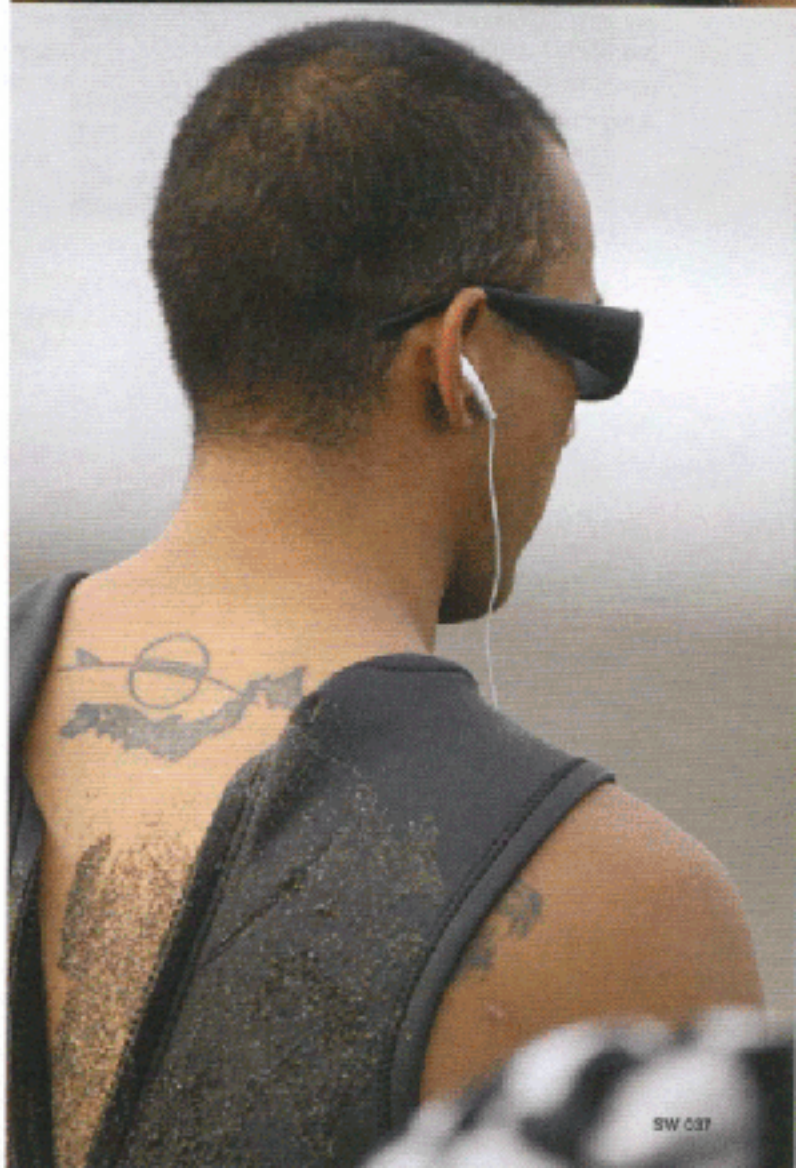
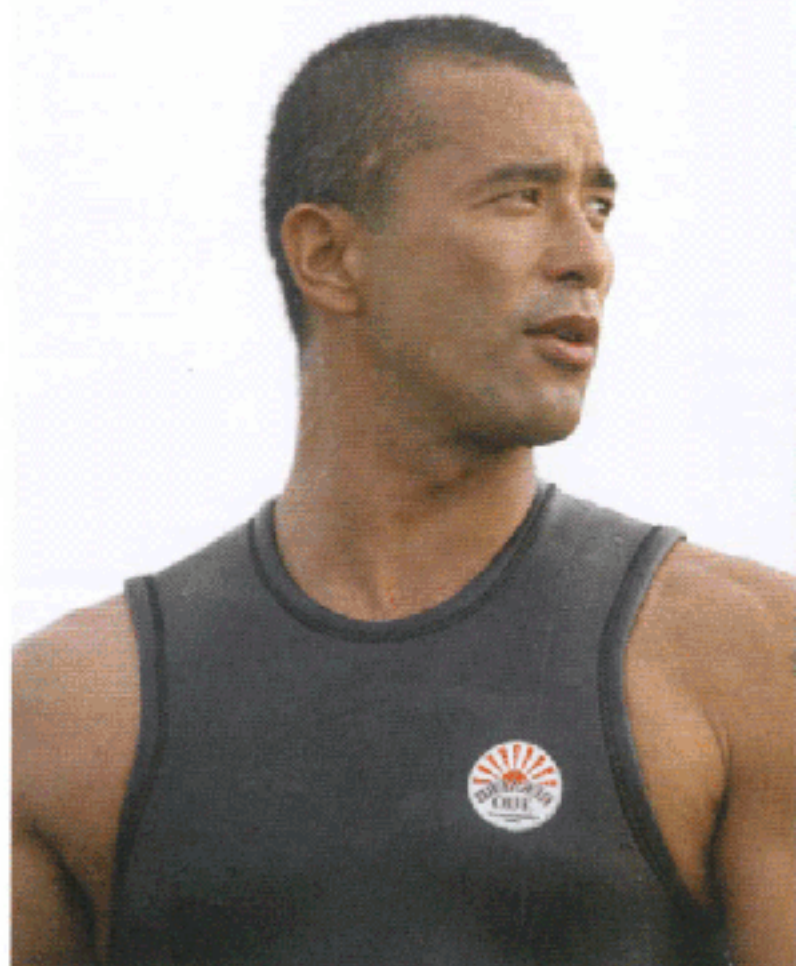
MK: いろんなタイミングが重なってできたことで、近くにUBGとZEBBLAを迎えたクルーがいて、みんなの協力があってできたことだね。そのチャンスに感謝して逃さないように思ったしね。CD出したって奴はいっばいいるわけだし。

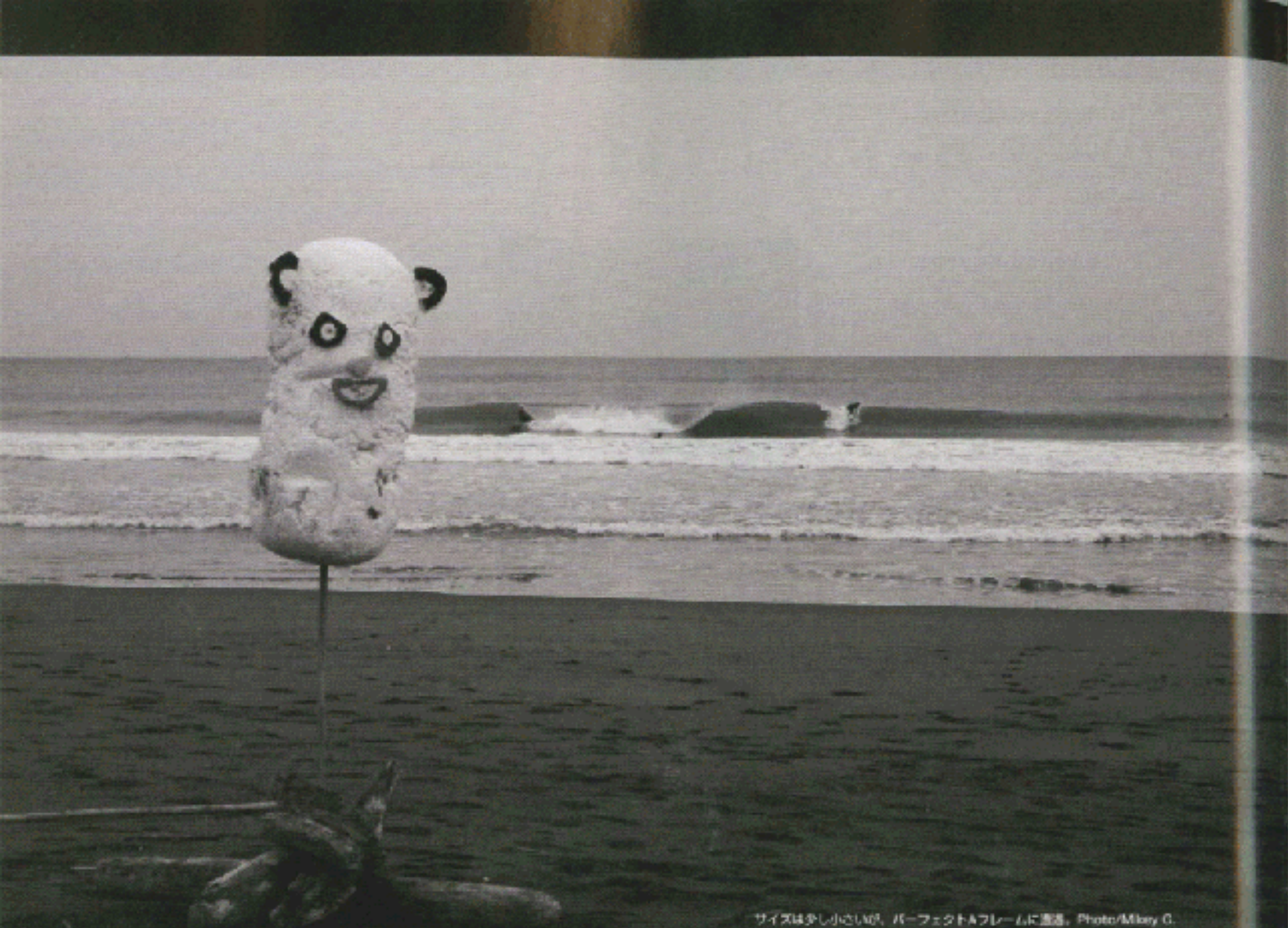
SW: 独自のサーフカルチャーを開きあげているように見えますね。

MK: 先輩達がずっとやってきたことの後に続いて、時代が変わって表現の仕方は違うけど。昔は海外のものばかり評価していたときもあったようだけど、俺らは日本の中で作り上げるってことで、そういうことに多少反発しているってのはあるかな。日本は世界でどこにもひけを取っていないと思うから、日本は日本なりの目標で、そういう文化の作り方がいいと思うし。

SW: サーフカルチャーとして一番影響を受けたのは？

MK: やっぱり、親父でしょう。小さい頃から一番クリエイティブな影響を受けたのは親父。でも友達や兄弟、今まで俺に携わってくれた人全員からも影響を受けているよ。





サイズは少し小さいが、パーフェクトAフレームに適合。Photo/Mkey G.

Team Volcom in Japan.

Volcom's tripping out in japan, Men



ツアー初日の集合カット。Photo/Mkey G.

Ozzie Wright, Mike Morrissey, Nate Tylerが日本に上陸！
 昨年の秋、日本の某所でVolcom InternationalとVolcom Japanによる
 初コラボレーション・トリップが実現された。
 果たして、どんな波が田嶋鉄兵、辻裕次郎、川越章吾、yogeを交えた
 Team Volcom総勢7名を持ち受けているのか？

撮影/トム・キャリー Photos/Tom Carey/Volcom
 文/吉田幸石 Text/Kensuke Yoshida.



Volcom Internationalにもその実力を認められている田嶋鉄兵。言うまでもなく、JAPAN TEAMのリーダー役をつとめてくれた。



Ozzie Wright.



Nate Tyler Photo/Hazime y.



Mike Morrissey.



Show-go Kawagoe.



Yoge.



Yuiro Tsuji.